

v 平成 29 年度

いすみ市介護サービス事業者連絡協議会 第 4 回研修会(報告書)

日時 平成 30 年 2 月 3 日(土)13 時 00 分から 16 時 30 分

場所 いすみ市役所 大会議室

内容 (第一部) スキンケアセミナー「排泄面におけるスキンケアの重要性について」

講師 ユニ・チャーム株式会社 首都圏営業部 千葉エリア担当
アドバイザー 小高 美由紀氏

(第二部)「福祉ロボット」の説明及び展示

講師 一般財団法人日本福祉力検定協会

参加者 31 名

(進行 渡邊)

1、開会 (吉田会長)

今年二回ほど雪が降り大変な思いをしたかと思う。「憎くて叩くにあらず笹の雪」という言葉がある。憎いから叩くではなく雪の重みで笹が折れないための意。その人を立ち直らせるため、という意。そういう思いを現場でも持ってもらいたい。



1 月 29 日介護報酬改定の新聞記事。自立支援、重度化を防ぐ事業には成功報酬を増やす。例えば施設ではおむつ外しを評価。今日のテーマは若干意味合いが異なるが重要と思われる。施設へ持ちかえり改めて認識して頂きたい。

2、(第一部) 講義(小高由美子氏) 13:10~15:00

ターンオーバー(表皮の新陳代謝)にかかる時間は年齢と共に長くなる。高齢者は治りにくい特徴あり、スキントラブルが起きやすい。摩擦が大きな要因。尿のアンモニア臭はアルカリに傾いている現れで、これが肌トラブルにつながる。おむつかぶれの要因はおむつの素材によるよりも、7~8 割が尿便、摩擦刺激によるもの。陰部洗浄やトランスファーの見直しが必要。お湯では大腸菌は落ちないので石鹸洗浄と保湿を。



健康な尿便は弱酸性に近い。尿路感染症ではアルカリ性が高くなり、尿と便が混じると

アルカリ性に近くなる。便がゆるいほど消化酵素を含んでいるので肌を刺激する。排便コントロールが重要。カンジダ症は特に夏場のカビの発生。真菌性に強い石鹸を使い、こすらないで洗浄することが効果的。陰部洗浄後のドライ拭きも重要。トラブルの原因には看護師の判断を求めること。

乾燥と蒸れでは、蒸れの方が肌は刺激を受けやすい。擦れの刺激に注意。おきてからでは遅いので前もって予防すること。

清潔ケアのやり方。一日に一回でも臀部まで洗うことが効果的。洗浄液の使用で介護の時短、大腸菌を減らすことができ、便尿臭がなくなる効果。「お尻まで、たっぷり洗って、ドライ拭き」を。

(13:45～13:55 休憩)

(演習) ①陰部洗浄の方法②おむつの当て方を、2グループに分かれて交代で演習



(第一部 講評 吉田会長) 仕事柄いかに利用者が快適であるかという点で、一番大事な部分を今日学ぶことができ、とても幸せなことである。基本を学び施設で活かしてもらいたい。

(第二部)「福祉ロボット」の説明及び展示 (一般財団法人日本福祉力協会) 15:15～16:30

国は今後の介護者の不足にあたり、介護ロボットや外国からの労働力を検討。「ロボット」は①動く部分②センサー(情報収集)③コンピューター(考える)の三つの定義で成り立っている。種類は「介護支援型」「自立支援型」「コミュニケーション・キュリティー型」の三種。

介護負担の中身は「移乗」「移動(装着・非装着・屋外)」「排泄」「食事」「見守り」「入浴」八種と言われている。施設の導入 16, 6%と少ない。理由と



して値段が高い、操作が面倒くさい。国の補助金有り。故障に備えて二台必要という課題。

以前はロボットが人間と一緒に働いてはいけないと言われていたが今はない。

新規事業の紹介。装着型の移動支援、排泄支援(予測、誘導)、見守り・コミュニケーション(コミュニケーションロボット)など。アンケート結果では33,4%にそれなりの効果あり。例えばセルフケアの意欲を沸かせる効果。一方で、レクリエーション機能によるほったらかしをうむ懸念も。メーカーを乗り越えて介護支援業務に活かすことや、記録業務の時間をカバーしたい、音声入力できるようにしたい等の課題ある。

「介護ロボットポータルサイト」参照してもらいたい。

(三つのブースに分かれて体験)



3、閉会 (齊藤)

一部、二部と内容の濃い時間を過ごせた。身近にロボットを体験できたことは良かった。本日午前中には次年度について役員会を行った。来年も期待して研修に参加してください。

以上